

特 251

324

191

142

佐野氏紀功碑建設記念誌

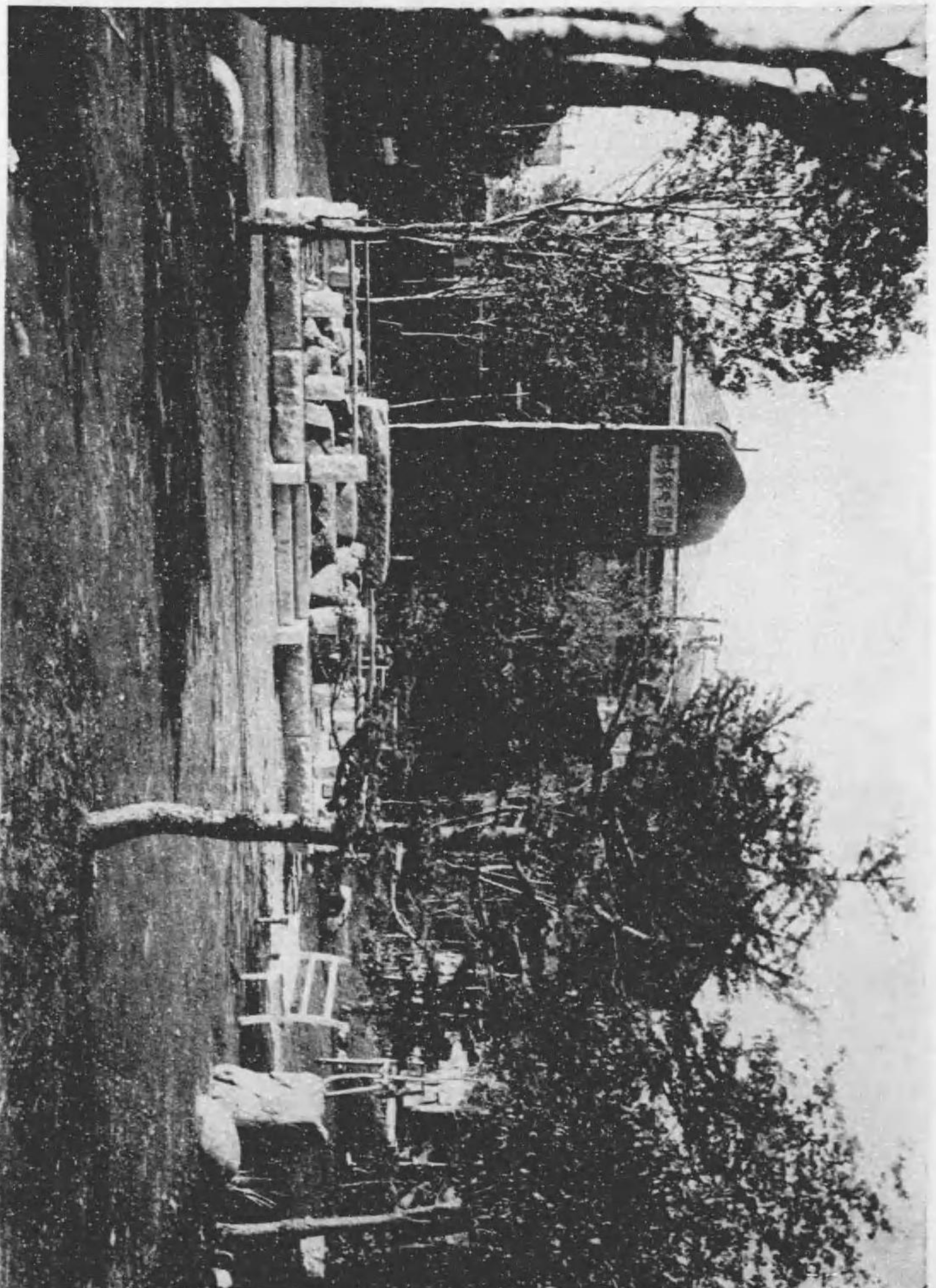
納本

始





藏源浦三同工石産卷ノ石前陸石材 石碑
尺一厚寸五尺五巾尺五十長
字六十二百七字文陰碑 字八十五百八字文陽碑



碑 園

位置
浦見町九丁目十七番地舊會所跡
公用敷地
假用地
一 二 三 坪
二 二 八 坪



(△改卜一寛後居隠)(頃歳十四)門衛右孫野佐 目代四 八像育此



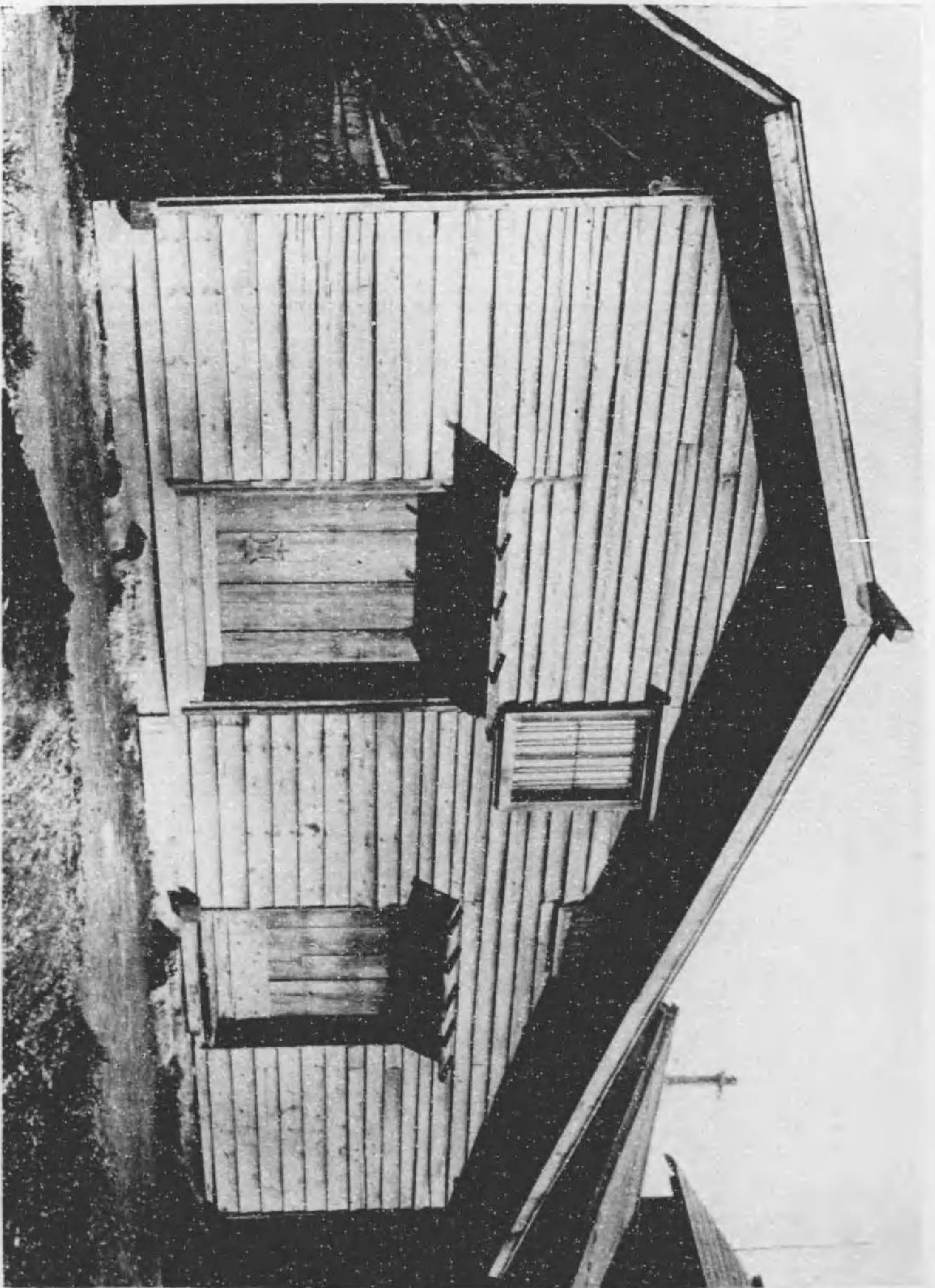
門衛右孫野佐 目代四
(作代喜 名幼)



門衛右孫野佐 目代六
(三 駿 名幼)

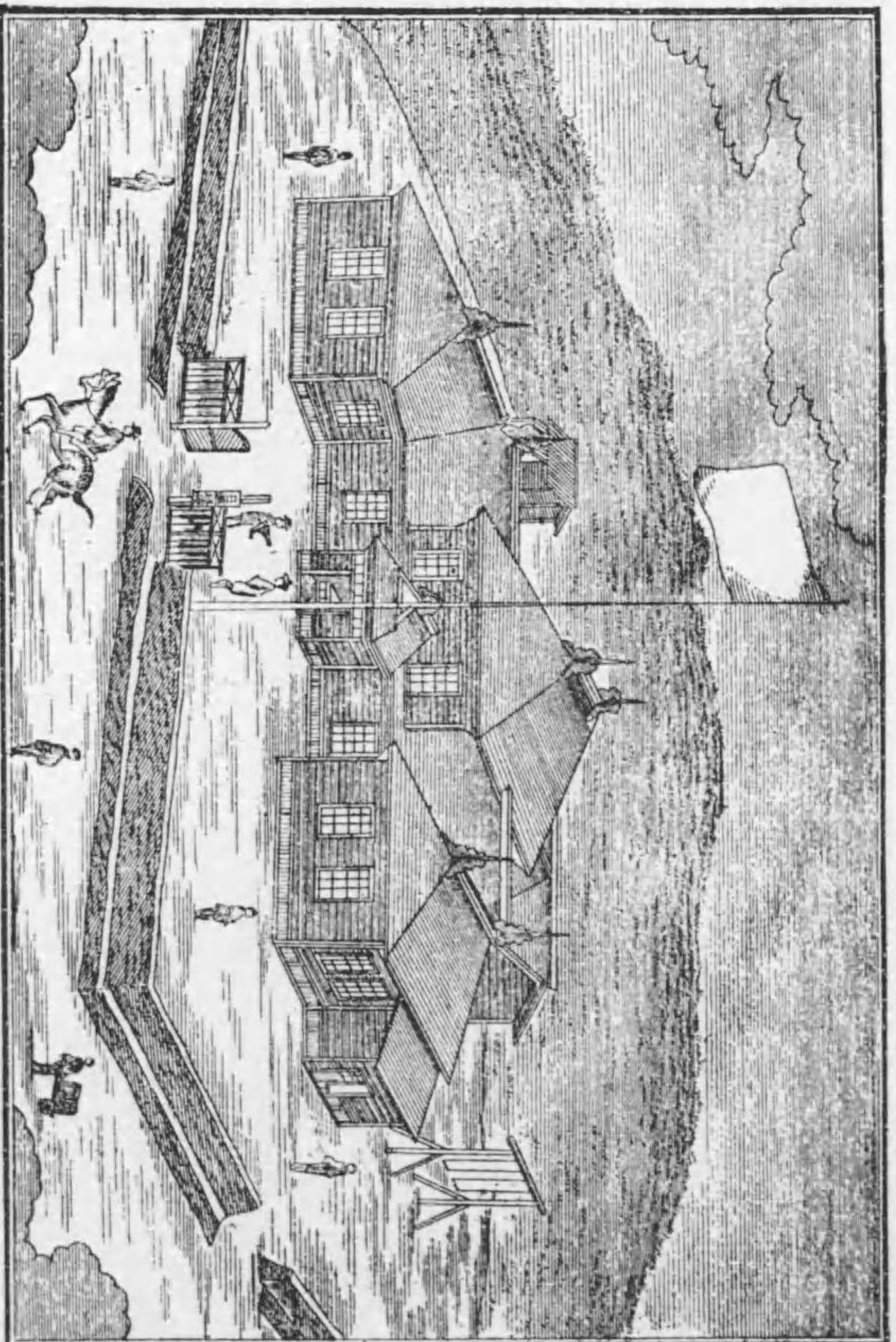


門衛右孫野佐 目代五
(郎 十 儀 名幼)

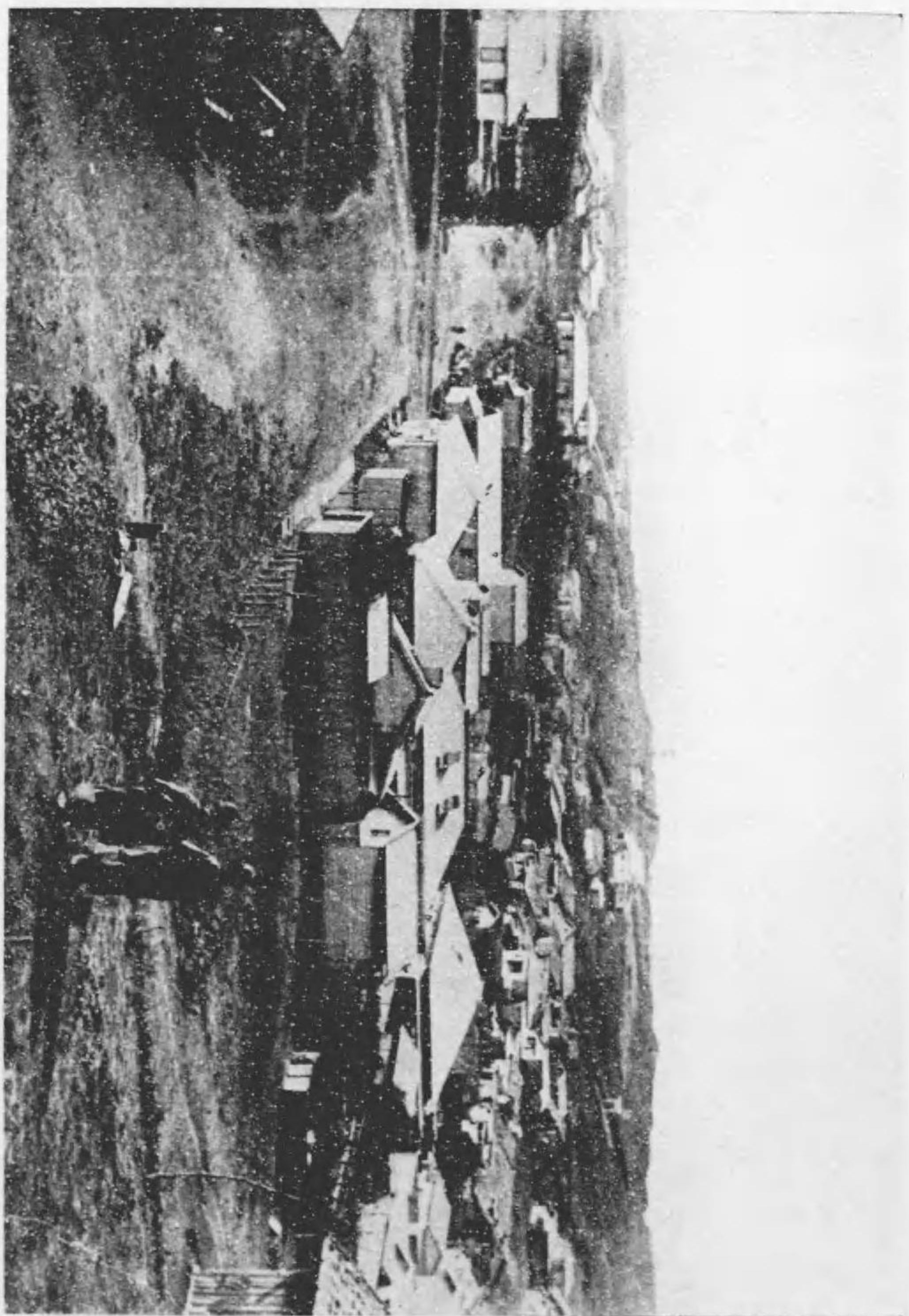


倉庫

會所時代ニ建設シタルモノニシテ内地村ヲ用テ
本造倉庫本家拾五坪下屋拾坪
南大通七丁目拾番地ニアリ現今個人所有



ノ校學小ルケ於ニ路劍チシニモルカ係ニ行刊ノ年三十二治明ハ圖此 圖之校學進日路劍
ル跨ニ地番九十二至乃地番六十二町生彌ノ今リナ船籃



米町之全景 明治二十四年九月撮影 鋼路村時代ノモノ

碑 陽 譯 文

佐野氏紀功碑 內務大臣正三位勳二等 後藤文夫篆額
贈從五位佐野孫右衛門紀功碑

佐野孫右衛門ハ劍路開發ノ功勞者ナリ。幼名ハ喜興作長ジテ孫右衛門ヲ襲稱シ晩ニ寬一ト改ム。天保十二年ヲ以テ渡島國福山ニ生ル。其ノ先キ孫兵衛ハ越後ノ人資性卓絶。夙ニ不毛ヲ拓キ民利ヲ興スノ志有リ。天明中蝦夷ニ渡リ身ヲ漁業ニ委ヌ。孫右衛門ハ其ノ四代ノ後ナリ。幼ニシテ穎異安政三年歲甫テ十六父ヲ喪ヒ其ノ業ヲ襲ギ久壽里場所請負人トナル。翌四年漁民五戸十五人始メテ南部地方ヨリ至リ久壽里ヲ以テ永住ノ地ト爲ス。是實ニ孫右衛門ノ招致スル所ナリ。尋テ元治元年虻田禮文華ノ請負人ヲ兼ネ頗令聞アリ。未タ幾何ナラズシテ任ヲ辭ス。爾來專ラカヲ久壽里ニ竭ス。明治三年漁民ヲ奥羽竝ニ函館ニ募ル。家ヲ舉ケテ之ニ應スル者百七拾四戸總員六百參拾九人其ノ劍路ニ移住スル者九拾戸昆布森ニ移住スル者五拾四戸仙鳳趾ニ移住スル者參拾戸其ノ家屋漁具一切孫右衛門之ヲ給與スト云フ。當時劍路ノ地タルヤ壤地未タ開ケズ。疾病身ニ逼ルモ醫ニ就テ治スルヲ得ズ。孫右衛門深ク之ヲ憂ヒ醫ヲ聘シ以テ療ヲ施ス。是ニ於テ一郷安塔ス。尋テカヲ教育ニ致シ僧ヲ招キテ教ヲ説キ旁幼童ヲ訓迪セシム。是ニ



於テ民風厚キニ歸ス。同四年大ニ土木ヲ起シ或ハ橋梁ヲ架シ或ハ渡船場ヲ設ケ以テ行旅ニ便ズ。又釧路ニ道路ヲ開鑿ス幅員四間延長七町是ニ於テ始メテ市街ノ觀ヲ呈ス。此年故アリテ漁場ヲ管主佐賀藩ニ讓リ而シテ函館ニ退去ス。其ノ將ニ去ラントスルヤ郷人俛俛トシテ齊シク別ヲ惜ミ涕ヲ流セシト云フ。亦以テ其ノ人ト爲リヲ察スルニ足ラン。同五年開拓使ノ所管トナルヤ復出テ釧路白糠厚岸ノ三場所ヲ經營ス。同十一年跡佐登ニ硫黃採鑛ノ業ヲ起スヤ。釧路ヨリ跡佐登ニ至ルノ間貳拾七里私費ヲ投シテ道路ヲ通ジ。以テ交通ヲ便ニシ運輸ヲ利ス。孫右衛門思慮周密事ニ當リテ苟モセズ。務メテ必成ヲ期ス。是ヲ以テ功績ノ稱述スベキモノ甚タ多シ。其ノ志又常ニ忠君ノ大義ヲ忘レズ箱館ノ役起ルヤ官軍ヲ援テ功アリ。事平ギテ官其ノ功ヲ錄シ金若干ヲ賞賜セラレ。之ヨリ先キ慶應元年米價暴騰箱館ノ地尤困蹙ヲ極ム孫右衛門乃チ倉廩ヲ發キ以テ窮民ヲ賑恤ス。此年又幕府ノ多事ナルヲ聞キ金貳千兩ヲ獻納ス。幕府其ノ志ヲ賞シ苗字竝ニ帶刀ヲ許ス。其ノ他公益ノ爲メニ財物ヲ捐スルコト枚擧ニ遑アラズ。宣ナル哉闔郷仰ヒテ仁厚ノ長者ト爲スヤ。晩ニ漁場ヲ武富善吉ナル者ニ讓リ而シテ隱退ス。弟儀十郎家ヲ繼ギ已ニシテ儀十郎歿シ息駿三嗣グ孫右衛門ハ明治二十二年九月十九日病ミテ歿ス。享年四十有九法號ハ長誓院釋得忍。大正四年 朝廷其ノ功ヲ錄シ 特旨ヲ以テ從五位ヲ贈リ賜フ。餘榮アリト謂フベシ。今茲昭和十年郷人其ノ功德ヲ追懷シ碑ヲ建テ之ヲ表サント欲シ。來リテ予ニ文ヲ請フ。予不文ヲ以テ辭スルヲ得ズ乃

チ狀ニ據リテ其梗概ヲ敘次ス且ツ繫クルニ銘ヲ以テス

銘ニ曰ク

寒山之麓。釧海之濱。有斐君子。闔郷稱仁。厚生利用。興郷濟民。歲華逝矣。德化愈新。於戲偉也。如斯之人。此碑不朽。其名不泯。

昭和乙亥八月建之

北海道帝國大學名譽教授正三位勳一等

男爵 佐藤昌介 撰

大東文化學院教授

土屋久泰 書

佐野家碑陰之記

四

東蝦夷地久壽里場所請負人佐野家ノ祖ヲ尋ヌルニ其ノ初代ヲ孫兵衛ト云ヒ。越後國三島郡寺泊ノ人天明中渡島國福山ニ渡リ唐津内町ニ住シ米屋ト稱ス。初メ石狩國ニ於テ漁場ヲ請負ヒ寛政中久壽里場所ニ移ル。久壽里ハ釧路ノ舊稱ナリ。同十一年東蝦夷地一帶幕府ノ直轄トナルヤ其職ヲ退キシガ。文化二年更ニ久壽里場所請負人ヲ命ゼラレタリト云フ。同四年孫兵衛歿シ養子儀兵衛家ヲ繼ギ拮据益力ム。文化中敬神ノ道ヲ唱明シ漁場ノ隆運ヲ禱ランガタメ。安藝ノ嚴島神社ヨリ其ノ分靈ヲ迎ヘ祠宇ヲ建テ、之ヲ奉祀ス。同八年道路橋梁渡船場等ヲ設ケ。又南部並ニ渡島地方ヨリ馬匹ヲ移入シテ交通ヲ便ニス。同九年請負場所ヲ入札ニ附セラル、ヤ。久壽里場所ハ河内屋某等ニ落札シタルヲ以テ返上ス。既ニシテ文政五年再ビ松前藩ノ所管ニ歸シ。三度米屋ニ請負ヲ命ゼラル。天保八年儀兵衛歿シテ其ノ養子勝三郎家ヲ繼ギ。佐野孫右衛門ト改名シ爾後襲名スヘキ旨ヲ傳フ。安政三年新ニ樺太場所ノ請負ヲ命ゼラル。同年病ヲ得テ歿シ嗣子喜興作家ヲ承ク。即チ四代目孫右衛門ナリ。蓋シ其ノ功績ニ至リテハ碑陽ニ明カナリ抑請負人ノ職タルヤ地方行政ヲモ司リ其ノ事務所ハ會所ト稱シ。半官半民ノ役所ノ如ク屋舍極メテ豪壯而カモ其ノ東側ニハ幕府並ニ警備ノ任ヲ負ヘル。藩臣等ノ役宅ヲ始メ會所附屬ノ建物相連リ。今ノ浦見

町九丁目及ヒ其ノ附近數町歩ニ亘ル。廣大ナル地積ヲ有スル構ニシテ使用人ノ集合等ヲ報スルニ。大太鼓ヲ以テスル等。威風頗ル堂々タルモノアリシト云フ。今茲昭和十年八月釧路開港公布三十五周年式典ヲ舉クルニ當リ。郷人相謀リ碑ヲ會所ノ跡ニ建テ。以テ其ノ偉業ヲ不朽ニセント欲シ。來リテ文ヲ予ニ請フ。乃チ郷人録スル所ヲ采摭シテ其ノ梗概ヲ記ス。

北海道帝國大學講師從五位勳六等 服 部 品 吉 撰

北海道帝國大學書記 庄子榮三郎 書

佐野家累代之事蹟 (諸記録綜合考證)

六

初代 米屋孫兵衛 越後國三島郡寺泊の人天明中渡島國松前郡福山に渡り唐津内町に住す始め石狩國に於て漁場請負人たりしが寛政の始め久壽里場所請負人を命ぜられしと云ふ(運上金百五拾兩) 因に久壽里場所は享和貳年海老名孫兵衛に請負を命ぜられ文化貳年之を解かるゝに當り久壽里白糠兩場所を米屋孫兵衛に再び請負を命ぜらる。

二代 文化四年初代孫兵衛歿し養子儀兵衛家を襲ぎ請負人を繼承す。

同年中敬神の道普及と漁業安全祈禱の爲め藝州宮島より巖島神社の分靈を勸請して神社を創設す。同八年河流に橋梁並に渡船場を設け陸には道路を開き休泊所を建て番屋を設けて交通に便す又南部並に渡島地方より馬を移し運送の便を計る。

同九年久壽里場所は幕府に於て入札に附せられし結果河内屋長三郎近江屋九十郎の請負となれり。文政五年松前の所領に復するや久壽里場所は三度米屋に請負を命ぜらる當時米屋にては支配人平兵衛として取扱はしめしか巖島神社献納の石燈籠に文政八年三月願主支配人米屋平兵衛萬葉丸長吉とあり同手洗鉢にも文政十年願主支配人平兵衛萬葉丸長吉とあるを見る。

三代 天保八年養子勝三郎家督を相續して孫右衛門と改め爾後代々襲名すべきを傳ふ。

當代に於て拾ヶ所の新場所を開く。

四代 勝三郎の嗣子喜興作安政三年父の歿後拾六歳にして遺業を相續し孫右衛門を襲稱す。

安政三年樺太に於て漁場請負を命ぜらるゝに當り豊島三右衛門を支配人として出張せしむ但し樺太請負の命は先代生前中にありしものゝ如し。

同年南部地方より漁民五戸拾五人を久壽里に移す。

文久元年更に樺太場所に番屋及倉庫拾貳棟を建て開發大に努め投資壹萬八千兩に及びしと云ふも漁獲甚だ薄く損害多かりしと然れ共當時露人に對する北邊の警備忽にすべからざるものありしを以て官の命ずる所に従ひ毫も屈せず其經營に當りしも元治元年樺太漁場は擧げて返上する事となり上地に際し漁具及建物は凡て箱館府に献ぜり官は其の功を賞し同漁場差配人を命じ五人扶持を賜ふ。

慶應中米價暴騰箱館の地住民困蹙を極むるや同地支店に於て毎日白米壹俵宛の施米を行ふ。

當時虻田郡の漁場薄漁なるにより請負人和田某之を返上せるを以て孫右衛門に其の經營を命ぜらる次で慶應參年之を支配人泉藤兵衛に譲り漁具建物(時價七千兩と云ふ)を無償にて附與す。

同年中幕府の用度多端を聞くや金貳千兩を献納せるに其の功を賞せられ苗字帶刀を許さる。

七

明治初年箱館の役に小林某と相謀り官軍を援けし功を賞し總督並に兵部省より金若干を賜る。
明治貳年請負人制度の廢せらるゝに當り久壽里場所は四代目孫右衛門漁場持となりぬ。

同參年奥羽並に函館地方より百七拾四戸の漁民を移し釧路昆布森仙鳳趾等に分住せしめ家屋並に漁具等を給與し自ら率先して本籍を釧路に移せり時に年三十。

此年醫師玄洋を聘して醫院を開き施療を行ふ又函館より僧永福法隨なるものを招きて布教並に教育の事を託す。

同四年釧路に幅員四間延長七町余の道路を開鑿せるにより始めて市街の体裁を呈せり之等の施設に辨じたる私財は貳萬圓に及べりと云ふ此年漁業の不振と或る事情の爲め漁場を管主佐賀藩に返上し家族を擧げて函館に退去す住民之を惜み三ヶ年間無報酬にて勞務に服するを條件として讎意を乞へるも許さず涕を揮ふて函館に出發せり當時住民は慟哭して其の別れを告げたりと云ふ。

同五年開拓使の所管となるや更に漁場經營の命あり其の業を復興することとなり釧路白糠厚岸三漁場の兼營を命ぜられ巨資を投じて之に當り百余箇統の網を放つの盛況に至りぬ。

同九年窮民の賑恤並に土着心を固むるの主旨を以て漁民に對する貸金の内壹萬貳千圓を免除し且つ昆布場所百貳拾八艘濱を關係漁民に無償給與す之れ官の愆愆を遵守せる處と云ふ。

同年跡佐登に硫黃礦を發見採礦の業を起す（或は謂ふ安政中の發見なりと）

同拾壹年硫黃の運搬と交通に便する爲め釧路より雪裡標茶弟子屈を経て跡佐登に至るの間二十七里の道路を開鑿に著し同拾貳年私辨を以つて竣功せり。

同拾貳年佐野家經營の漁場は全部を武富善吉に讓渡すこととなり同拾參年引繼を了んぬ。

五代 儀十郎は四代目右孫衛門の實弟なり明治十三年四代目病痾の爲め隱居して寛一と改め家督を相續せしめたるも翌年病歿す。

六代 駿三と稱す四代目の實子なり五代目病歿の時年僅に五歳なりしも家督を相續せしめ寛一之を後見す。

明治貳拾貳年九月拾九日寛一病募りて歿し次で同貳拾八年六代目亦病歿し名門の跡悼しくも一時絶家せり噫乎。

七代 駿三の從兄貞作明治參拾六年再興して孫右衛門と稱す本籍は小樽市東雲町貳百七拾五番地にあり現在東京市蒲田區蒲田二百七十五番地に居住せり。

四代目佐野孫右衛門は本道産業開發の功勞により大正四年十一月 特旨を以つて從五位を贈與せらる。又大正七年本道開拓五十周年記念式典を舉行せらるゝに當り北海道廳長官より開拓功勞者の第二位

佐野家過去帳寫

佐野家は明治十四年函館大火の際全焼の厄に遭ひ其後再び小樽に於て火災に罹り大切の書類を始め系譜過去帳等迄焼失せし爲め福山並に國元の寺院等取調べられしも詳細明かならず僅に小樽淨應寺の記録より拔萃せられたるものを参考の爲め茲に記す。

釋淨證 先祖 寶永七庚寅年十二月九日死去

註 此先祖は今を去る二百二十六年前の人にして久壽里場所請負人の初代孫兵衛とは年代に相違あるを以て越後にて家を起したる先祖ならん。
初代孫兵衛文化四年歿せるも詳細不明従つて過去帳に見へず。

釋義淨 俗名義兵衛（勝三郎の父）天保八丁酉年八月二十五日於松前死去

註 勝三郎死去年月判明せず天死せるやに聞くとあるも誤りなるべし。

釋義道 俗名彌右衛門（寛一の父）安政三庚午年二月十五日死去享年四十歳

註 彌右衛門とあるも草書に書きたるため孫の字との間違なるべし年月より推して勝三郎たること疑なし且つ當代より孫右衛

門と改めたるに見るも誤なること明かなるべし。

長誓院釋得忍 俗名寛一（義十郎の兄）明治二十二年九月十九日死去享年四十九歳

註 正しく四代目孫右衛門なるも隠居後改名の爲め寛一を用ひたるなるべし。

釋淨明 俗名義十郎（寛一の弟）明治十四年八月十日死去享年二十七歳

釋淨諦 俗名駿三（寛一長男）明治二十八年八月二十一日死去享年十八歳

親戚關係

佐野重藏氏 佐野家の養子分家シテ別ニ一家ヲ創立現在札幌市桑園鐵道官舎ニ居住

張江大策氏 當代佐野孫右衛門氏ノ實父故佐野孫兵衛（養子分家）ノ實弟故張江豊治ノ長孫

現在釧路市浦見町六丁目四番地ニ居住

西川亀之助氏 故西川幸右衛門ノ裔幸右衛門ハ佐野家ト縁籍關係アリト云フ釧路市大町五丁目

七番地居住

其他明カナラズ

佐野氏紀功碑建立ニ就テ

一二

本日茲ニ釧路開港記念日ヲトシ 贈從五位佐野孫右衛門大人ノ紀功碑ノ建立ニ付除幕式ノ盛儀ヲ舉行致シマスコトハ諸君ト共ニ洵ニ慶賀ニ堪ヘマセン

惟フニ大人ハ釧路開拓ノ大恩人タルハ勿論北海道産業開發ノ先驅タル功勞者デアリマシテ事業家トシテノ偉傑タルト共ニ頗ル慈仁ニ富メル高德ノ人デアリマシタコトハ碑文ニ盡サレテ居リマス故ニ今更喋々ト詳細ヲ述フルニハ及ハヌト存マス此功德者ニ對シ謝恩ノ意ヲ彰ニセンカ爲メ明治二十七年釧路村時代ニ建碑ノ議ハ發芽セルモノト聞イテ居リマス然ルニ當時日清戰爭ノ眞最中デ人心恟々逡巡トシテ進マズ立消ニナツタト云フ事デアリマス其ノ後大正九年區制實施ニ際シ多クノ功勞者ニ對シ夫々表彰ヲ行ヒマシタ當時再ビ建碑ノ議ハ起リ決議ニハナリマシタガ制度ノ變革等多事旁實行ニ移ラザル間ニ更ニ市制實施トナリ理事者議事機關等モ更迭トナリ或ハ有力者ノ移轉死亡等ガアリ時移リ世ガ變リテ次第ニ熱モ冷メ在再永イ年月ヲ經過シタノデアリマス。

倍々昭和九年二月ノ市會ニ於キマシテ斯ノ如キ大切ナル謝恩行爲ヲ等閑ニ附スハ後人ノ義務ヲ思サルノ甚シキモノトシ直ニ實行ニ着手スベキデアルトシ熱烈ナル提唱者ガアリマシタナレドモ何分ニモ連年ノ不況ニ市民ノ疲弊困憊ノ折柄諸種ノ出費ヲ要スル當面ノ事業數多ニシテ容易ニ實現ノ運ニ至ラザリシ處昨昭和十年ノ春會テ師範學校建設ノ目的ヲ以テ醸出セラレタル寄附金ノ内金壹千圓ヲ建碑基金ニ充當スベキコトニ各寄附者ノ諒解ヲ得ルニ至リマシテ一舉ニ其ノ議纏リ先ツ市會ノ全議員並ニ代議士道會議員各學校長等ヲ發起人トシ其ノ内ヨリ實行委員九名ヲ舉ゲテ種々協議ノ結果全市ヲ三十八區ニ頒ケ各區ヲ通シテ五百三十三名ノ建碑委員ヲ囑託配置シ且ツ市長ヲ委員長ニ市會議長ヲ副委員長ニ推舉シ更ニ各區ヨリ評議員八十名ヲ選ミテ商議機關トシ實行ニ移スコトニナリマシタ而シテ同年五月市會議長ハ青森橫濱市等ニ議長會議ニ出席ヲ好機トシ各地ヲ視察シテ碑石ノ調査ヲ行ヒ參考資料ヲ得テ歸釧シマシタノデ計畫ヲ決定シ建設費四千三百四拾五圓ヲ議決シ資金ハ金額ノ寡多ヲ問ハズ可及的汎ク一般市民ノ淨財ニ據ツテ建設シ以テ恩人ノ功績ニ對スル認識ヲ深カラシムルニ努ムルコト、シ一面市ニ於テハ同年八月四日釧路開港三十五周年記念ノ祝賀會開催ニ際シ開拓功勞者トシテ頌德表ヲ呈シ碑一基ヲ建立シテ大人ノ恩煦ヲ後昆ニ傳フル旨ヲ宣明シタ次第デアリマス又建碑委員諸氏ハ大車輪ヲ以テ寄附金ノ勸誘ニ奔走サレマシタ結果殆ンド全市民洩ル、コトナキ程ノ廣範ニ亘リ募集セラレ容易ニ豫定ノ資金ガ得ラレタノデアリマス。

尙ホ碑園ノ敷地ハ舊會所ノ跡ヲ物色シマシタガ同地ハ私人ノ所有ニナツテ居リマシタノデ市有地ト交換

一三

シテ其ノ用ニ充ツルコト、シ市會ニ於テ滿場一致ヲ以テ議決トナリ該土地ノ所有者モ快諾サレマシタコトハ洵ニ欣幸ナル次第デアリマス又園内ノ植木其ノ他ノ特殊施設並ニ遺物等ハ豫算以外デアリマシテ特別ノ篤志ニヨリ團體或ハ個人ヨリ寄贈セラレマシタノデ斯ノ如ク立派ナ碑園トナリマシタ尙ホ事業ノ遂行ニ就キマシテハ佐々木副委員長凡テヲ擔當シ始終其ノ衝ニ當リ東奔西走克ク竭サレマシタノデ頗ル複雑性ヲ持ツ本事業ガ何ノ支障モナク工ヲ終ヘマシタコトハ全ク各位ノ熱烈ナル御支援ト御盡力下サレマシタ結果ニ依ルモノト存ジ洵ニ感謝ニ堪ヘマセン

從テ寄附金應募者各位ヲ始メ御奔走下サレマシタ諸氏ニ對シ夫々然ルベキ方法ヲ以テ感謝ノ意ヲ表シ御挨拶申上ベキデアリマスガ何分ニモ一萬數千人ノ寄附者デアリマシテ相當費用モ要スルコトデアリマスカラ特ニ省畧サシテ頂クコトヲ御許シ願ヒタイト存ジマスノデ此点ニ付キマシテハ委員各位ニ對シテモ御了承ヲ願フト共ニ若シ御質議デモ成サル方デモアリマシタナラ御取成シ願ハラル、ナレバ誠ニ幸甚デアリマス尤モ一般寄附以外ニ特別ノ財物又ハ勞務寄附ヲ受ケタル向ニ對シテハ感謝狀ヲ呈シタイト存ジマス。

尙ホ園名ニ就テハ多數ノ候補名ヲ選定シ評議員會ニ於テ投票ニ附シタル結果大多數ヲ以テ佐野碑園ト決定シマシタ。

終ニ臨ミ此大事業ノ資金調達ノ爲心良ク喜捨ヲ頂キマシタ各位並ニ御盡力下サレマシタ建設委員各位ニ對シ深甚ノ敬意ヲ表シ衷心ヨリ感謝ノ辭ヲ捧グル次第デアリマス

以上

昭和十一年八月四日

佐野氏紀功碑建設委員會

委員長 茅野滿明

昭和十一年七月三十日印刷
昭和十一年八月十四日發行

〔非賣品〕

發行所 釧路市役所

釧路市大町六丁目三番地

編輯者 佐々木米太郎

釧路市北大通八丁目六番地

印刷所 米内印刷所

終

